

神奈川県産植物の報告 (その4)

大 谷 茂*

New contributions to Florula Kanagawensis (4)

Shigeru OHTANI*

(with 2 plates)

この報告は本誌前号 (1962) に引続くものである。別に本誌に発表した三浦半島植物雑記の中にも本県植物誌に補足追加を要するものを記録してあるので、この報告では除外してある。ここに報告せるものは、すべて採取標本ならびに採取時の観察をもとに記述したもので標本はすべて本館に保存してある。各項の番号は前号につづくものである。

前号にこの報告とは別にツリフネソウと、キツネノボタンの新品種を発表したことについて、松山庫三氏から貴重な資料を寄せられたので、ここに同氏に深く感謝し補足をしておく。すなわち、著者等が発表したナメラツリフネソウは、すでに同氏が信州戸隠山で採取し、トガクシツリフネと新称している (1954)。勿論同氏の正式発表ではないが、和名はこれを尊重し、ナメラツリフネソウは異名となすべきものである。ヤエザキキツネノボタンは朝比奈泰彦先生が御殿場の田畔で撮られた写真をだされている (1934)。また京都にも報告があるものである (西沢信一, 1960)。また田代信二氏より神奈川県植物について資料を送られたので謝意を表しここに附記する。(148) アカイシコウゾリナ, 西丹沢, 二本杉峠。(149) フクオウニガナ, 西丹沢寄沢, 城ヶ尾峠, フクオウソウに混生。(154) シラネセンキュウ, 西丹沢, 地獄沢。その他, イワアカバナ, アケボノスミレ, フモトスミレを田代氏は採取している。また本報告 (1) (1960) の (50) オオハクウンランは元箱根で田代氏の採取されたのと同じで同氏の新発見とのことである。田代氏の資料中、特記すべきは、丹沢で、コメガヤを採取されたということである。コメガヤ *Melicanutans* LINN. は本県植物誌に未記録のもので同氏の採取品を見ていないが、事実とすれば何とか確認したいものである。田代氏の寄せられたものは、すべて直接採取品に当たっていないので他日確認した上で正式発表をしたいと思っている。

この報告に際して助言指導をたまわった鈴木重隆氏。また標本を提供された石渡宏, 赤星直忠, 間瀬美保子, 伊藤幸太郎, 佐宗守, 桑田健吾, 逸見操, 川瀬ツル諸氏に深甚の謝意を表する。

A. この項のものは本県内に新たに発見されたもので、神奈川県植物誌に増補さるべきものである。

166. やまそてつ

この採取品では栄養葉の柄は長いもので 8 cm。葉身は長さ 32 cm, 羽状に全裂し下部羽片は狭くなる。縁には細かい重鋸歯がある。胞子葉は栄養葉より、はるかに長く、羽片は平面に拡がり、基部は広く、無柄で中軸につく。

産 地 丹沢山塊, 塔ヶ岳

採集者 石 渡 宏

採集日 昭和 34 年 7 月 29 日

本種は本県のシダとして始めて記載するものであるが、その自生は著者も以前から信じていたも

* Yokosuka City Museum, Yokosuka Japan. 横須賀市博物館

のである。おそらく他地区からも、あらわれてくると思う。

167. みやまへびのねごさ

全体が小形のシダである。葉柄は極めて短く約 3 cm。羽片は羽状に深裂し、下部の羽片は短くなっている。sorus は、いくらか縁寄について小さく、包膜は楕円形、なかにはカギ型もある。

産地 丹沢山塊, 源次郎沢

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 36 年 7 月 28 日

本種はヘビノネゴザの小形のものと、まちがえ易いが、上記の特徴からは本種に相違なく、本県産シダとしては始めてである。生時観察のメモをみると包膜の縁にまばらではあるが糸状の突起が認め易い。

168. ひめいわとらのお

岩面にてついている。多くは葉柄の方が葉身より長い。葉軸に仔芽（無性芽）ができる。

産地 丹沢山塊, タライゴヤ沢

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 33 年 8 月 12 日 (1958)

本種は上記丹沢の新大日に近いところからタライゴヤ沢に下りたとき、まもなくの沢の上部の岩面に着生していたものである。採取当時は何のこともなく、イワトラノオとおもい、そのままになっていた。ところが横浜植物会の展示会 (1962) に西田誠博士の本種の出品 (Jul. 4, 1962 採). をみて、著者の採取品を再検したところ立派に仔芽のある本種であった。丹沢山塊新産のシダとしてここに報告することができたのは、西田先生におうところが大きい。

西田先生の採取された標本は本種のほか、ハカタシダ (丹沢山下, 幽神へ玄倉間, 1962. 8. 24), イワヒメワラビ (丹沢山下, 札掛, タライ小屋沢, 1962. 8. 22), アスカイノデ (丹沢山下, 札掛, タライ小屋沢 1962. 8. 22) の 3 種を本館に寄贈されたが、これらはいずれも県内他地区にはあるが、丹沢山塊新産のシダである。

169. ふぎれみつでうらほし

母種のミツデウラボシの葉の両側が細裂するものである。

産地 愛甲郡, 半原

採集者 間瀬美保子

採集日 昭和 37 年 4 月 29 日

本種は上記の半原バス停から中津川にかかる橋を渡って右手山道にかかって、まもなくの岩上で採取されたものである。本県産シダとしては初めての記録である。昨年屋久島のシダ調査中、山口瑞芳氏所蔵の標本中に尾之間で田原優氏採取の未同定のものは正しく本種であったので著者は同定してきた。不思議なことに実葉がでない。裸葉のみにあらわれる形態であろうか。

170. きばなのしょうきらん

根茎が肥厚し、いちぢるしく分岐している。茎もよく肥厚し、高さ 27 cm で、三角形の鱗片がついている。花は 13 個密につき、淡黄色で花被片は半開している。

産地 丹沢山塊, 寄木沢上流, 山の神渡し附近

採集者 伊藤幸太郎

採集日 昭和 37 年 6 月 30 日

本種は伊藤氏が上記のところ、松田より寄木、ウズモを上り、雨山峠と鍋割峠への分岐点から僅か下方で、桧林に生じたものである。その後、井上式喜 (カクヨシ) 氏は丹沢ヤビツ峠から札掛への途中、青山荘より 100 m の所の左、川を渡った杉林で採取している (昭和 37 年 8 月 1 日)。

本種は林中に稀産の珍しいランで、中井猛之進博士が伊豆天城山で採取（昭和6年）されたのが始めて、その後牧野富太郎先生が本県の箱根で採取されたのが昭和13年7月14日のことである。箱根では今日でも台ヶ岳や箱根神社附近に発生すると松浦正郎氏は確認している（1960）。“北陸の植物”（1962）。に正宗敬敏先生の箱根台ヶ岳で写された生態写真が表紙をかざっている

本種が神奈川県植物誌に記録のないのは全くのミスであるが、箱根とは別に、丹沢にも発見されたことは、おそらくこの報告が始めてのことであろう。

171. ながばやぶまお

茎は葉柄とともに淡紅色をし、上方部に、まばらに短毛がある。葉は対生し卵状長楕円形、尾状鋭尖頭で縁に同大の歯状鋭鋸歯があり、基部広楔形、3主脈明瞭、表裏脈上に少しく毛がある。葉身は長さ15cm、巾7cm、葉柄3~10cm。花は上部に雌花序、下部に雄花序がある。雄花も雌花も、ともに球状に集まる。果実は花被筒につつまれ倒卵形で花被筒の上方にだけ短毛がある。

産地 丹沢山塊、絵洞

採集者 大谷 茂

採集日 昭和36年8月28日

本種は関東以西に生ずるものであるが、本県植物誌には記録がなかった。本種は東京都秋川の五日市附近には多く見られるものである。

172. くろばなえんじゅ（いたちはぎ、ロシアはぎ）

葉は互生で奇数羽状複葉、小葉は13~23。枝端に数個の花序がつく、花序は7~18cm、多数の花を密生し、花は黒紫色、翼弁と竜骨弁がない、旗弁は雄蕊を包む、雄蕊は超出する。花期は6~7月。

産地 丹沢山塊、ユースン

採集者 佐宗 守

採集日 昭和36年6月24日

本種はアメリカ原産の植物で、観賞用としてよりも、山林の砂防用としてよく利用されるので、上記のところでもその目的で移植したものであろう。同じく佐宗氏の採取品に高座郡綾瀬町深谷（Jun. 28, 1962）のものがあったが、栽培か逸出したものか現地を見ないとわからない。花が美しいので公園のようなところには観賞用に適する。

173. いわおとぎり

本品の茎は大きいもので高さ25cm、分枝することなく、また殆んど稜線が認められない円いものである。葉は長楕円形で発育のよいところで長さ3cm、巾1.5cm、わずかに抱茎、辺縁に黒点があり、上部にわずかに明点と黒点を散布する。花は少数だが割合に大きい。

産地 丹沢山塊、ユースン

採集者 大谷 茂

採集日 昭和37年8月27日

本種は変異が多く時に中間形があって、なかなか困難なものであるが、上記の性質からイワオトギリと同定した。本県植物誌に未記録のものである。

174. えぞのたちつぼすみれ

葉は心形から卵心形。托葉はいちぢるしく羽裂している。茎、葉の両面、葉柄、花柄、托葉、萼、側弁に白短毛がある。

産地 丹沢山塊、札掛一の沢考証林

採集者 大谷 茂

採集日 昭和37年5月20日

本種は本州中部以北に分布するスマレで、まだ本県植物誌に記録されていないものである。生時は距の背に溝がはっきりわかる。吉川代之助氏も西丹沢水の木でこれを採取している (1962)。

175. おおばのよつばむぐら

本採品では茎は高さ 27 cm。葉は薄質で 4 枚輪生、なかには 5 枚のものもある、広楕円形で鈍頭、凸端、明らかな 3 脈がある。大きい葉で長さ 3 cm、巾 1.4 cm、縁に前向きの小剛毛、上面に粗毛がある。採取時は、すでに花期をすぎて果実時のもので、果実は乾果、分果には長い鈎状の毛が密生している。

産地 丹沢山塊、札掛一の沢考証林

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 37 年 5 月 20 日

本種は上記のところ針葉樹林内で採取したもので、神奈川県植物誌に未記録の新しいものである。

176. おくくるまむぐら (おおくるまむぐら、ちょうせんくるまむぐら)

本採取品は花期前のもので、花部の観察はできなかった。茎はいくらか斜上し高さ 27 cm、4 稜形で稜上にまばらに小さい逆刺がある。葉は 6 枚輪生し、長楕円形で上半部巾最も広く、大きい葉では長さ 2 cm、巾 1 cm に達し、先端は鈍頭または円頭で凸端、表面および縁、裏面脈上に毛がある。

産地 丹沢山塊、札掛一の沢考証林

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 37 年 5 月 20 日

本種は森林内に生ずる多年生の植物で、花期前で花の観察はできなかったがオククルマムグラであって本県植物誌に記録なく、新産の種である。

B. この項のものは新産地として神奈川県植物誌に産地の追加をすべきものである。

177. あおほらごけ 西丹沢、白石沢。佐宗 守, Jun. 12, 1960.

178. からくさしだ 西丹沢、白石沢。佐宗 守, Jun. 12, 1960.

179. さくらかぐま 津久井郡、城山。間瀬美保子, Apr. 29, 1962.

180. はりがねわらび 藤沢市、亀井野。桑田 健吾, Jun. 10, 1962.

181. ひめさじらん 西丹沢、白石沢。佐宗 守, Jul. 20, 1960.

182. かりやすもとき 大山、大谷 茂, Aug. 25, 1960.

本種は丹沢山塊山神では岩城氏が採取している。(Aug. 27, 1961)。

183. ぬかほしそう 丹沢、札掛一の沢考証林。大谷 茂, May 20, 1962.

184. おおばのとんぼそう 藤沢市、石川。桑田 健吾, Jul. 1962.

185. べにばなげんのしょうこ 丹沢、玄倉。大谷 茂, Aug. 27, 1961.

本種は花色以外ゲンノショウコと変ったところはない。一般に白色花は関東に多く、紅紫色花のものは関西に多いものである。葉山観光館の川瀬ツル氏採取品を同定中、同氏が葉山一色で採取した (Nov. 1, 1962) のものは、この紅色花品で、三浦半島では初発見である。

186. こふうろ 相州大山頂上。赤星 直忠, Aug. 25, 1960.

本種は赤星氏の採品を著者が同定したもので、本県では箱根や津久井に知られていた。赤星氏は大山頂上で採ったが、大山の中社附近にも、ムカゴネコノメ *Chrysosplenium Maximowiczii* Fr. et Sav. と混生しているのを著者は認めている。

本種は茎は細く上部に下向きの圧毛が片側についている。葉は互生して、3 全裂し、なかには側片の葉がさらに 2 裂しているものもある。托葉は細長くて離生している。花は白色のものもあるが、

この採取品は淡紅色の型のものである。萼には開出長毛が、まばらにでている。

187. みつばうつぎ の一型 丹沢, 札掛一の沢考証林. 大谷 茂, May 20, 1962.

本種は落葉低木で、葉は対生、托葉は早落する。葉柄は長さ 2~3 cm。小葉は 3 個、側小葉は普通無柄であるが、下記丹沢の採品は明らかに 3~4 mm の柄があるし、頂小葉も基部小柄状に多少延下するが、側小葉の柄より長くははっきりと柄になっている変わったものである。葉縁には凸点に終る鋸歯がある。葉の下面は淡色で、中肋上に軟短毛がないが、表面の中肋上には軟短毛がある。

上記のように側小葉が有柄なることと、葉の裏面中肋上は無毛なることはミツバウツギと異った点で新品種とおもわれるが、正式発表は後日にしたい。

188. みしまさいこ 横浜市, 本郷. 間瀬美保子, August 1961.

189. いわにんじん 愛甲郡, 清川村. 逸見 操, Oct. 10, 1956.

190. やまぜり 相州, 大山. 逸見 操, Oct. 23, 1956.

この逸見氏の採取品は、茎にも葉にも毛のない無毛品である。神奈川県植物誌には本種が横浜、金沢に産するとしてあるが、この地区で著者は確認したことがない。本誌 No. 7 に丹沢産を著者は発表した。本県では本種よりも、その品種 *Ostericum Sieboldi* form. *hilutulum* (HIYAMA) HARA ケヤマゼリの方がむしろ多いのである。今まで普通ヤマゼリとしていたものを再検すれば、有毛品のケヤマゼリの方が多いのではなかろうか。

191. ふなばらそう 丹沢, 札掛一の沢考証林. 大谷 茂, May 20, 1962.

192. すずさいこ 横浜市, 本郷. 間瀬美保子, Aug. 27, 1961.

193. おおふたばむぐら (たちふたばむぐら. すなむぐら) 藤沢市, 今田. 桑田 健吾, Oct. 6, 1962.

194. おおつくばねうつぎ 厚木市, 浅間山. 逸見 操, Apr. 21, 1957.

本種は葉柄や葉裏脈上に相当長い毛がある。また葉の表面や縁にも毛がある。萼片は、1 枚が全く退化してなくなり、同形のものが 4 個だけあるのが殆んどであるが、ときには 1 枚だけ小さくなって 5 枚あるものもある。花は大形で、花冠の長さ 3.8 cm もあり、花筒部も細長い。花期も早くツクバネウツギとは異なるものである。従来本種をツクバネウツギの萼片の一つが小さくなったもので、その品種 *Abelia spathulata* SIEB. et ZUCC. form. *subtetrasepala* NAKAI メツクバネウツギとよんでいたが、上記の通り本種はツクバネウツギとは異なるもので、先のメツクバネウツギも本種のことである。

195. あきわぎく 丹沢, 桧洞丸. 大谷 茂, Aug. 28, 1961.

本採取品は発育のわるいもので、葉も花も典型品より小さいものであるが、その他の性質はアキワギクに一致している。

R é s u m é

Since the publication of "Flora Kanagawensis" in 1958, the author has annually reported supplemental facts to the flora in order to record a more accurate list of plants in the area of Kanagawa prefecture. This is a report of new facts collected after the last report. New-found plants and localities in the area of Miura Peninsula are reported under the article "Miscellaneous Notes on Plants in Miura Peninsula Japan (4)".

All specimens listed below are kept in the Herbarium of the Yokosuka City Museum. The numbers of items are continued from the previous report, and the detailed localities and collectors are shown in the round brackets.

Part A: The following plants should be added newly to the flora.

- 166 *Plagiogyria Matsumureana* MAKINO (Tōgatake, Mts. Tanzawa; Hiroshi Ishiwata)
- 167 *Athyrium rupestre* KODAMA (Genjirō-zawa, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 168 *Asplenium capillipes* MAKINO (Taraigoya-zawa, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani) This locality is not calcareous and this species is very closed to *Asplenium Varians* WALL. ex HOOK. et GREV., but has distinct gemma on the rachis.
- 169 *Crypsinus hastatus* (THUNB.) COPEL. forma *incisus* (MAKINO) NAMEGATA et KURATA (Hambara, Aikō-gun; Mihoko Mase) The fertile frond of this forma has not yet been found.
- 170 *Yoania amagiensis* NAKAI et F. MAEKAWA (near Yamanokami-watashi, Yadorigi-zawa, Mts. Tanzawa; Kōtarō Itō)
- 171 *Boemeria Sieboldiana* BLUME (Hinokibora, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 172 *Amorpha furticosa* LINNAEUS (Yūshin, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 173 *Hypericum Kamtschaticum* LEDEB. (Yūshin, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 174 *Viola acuminata* LEDEB. (Ichino-sawa, Fudakake, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 175 *Galium Kamtschaticum* STELLER var. *acutifolium* HARA (Ichinosawa, Fudakake, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 176 *Galium trifloriforme* KOMAR. (Ichino-sawa, Fudakake, Mts. Tanzawa, Shigeru Ohtani)

Part B: New localities of the following plants should be added to "Florula Kanagawensis"

- 177 *Crepidomanes insigne* (v.d. BOSCH) FU (Shiraishi-zawa, Mts. Tanzawa; Mamoru Sasō)
- 178 *Pleurosoriopsis Mokinoi* (MAXIM.) FOMIN (Shiraishi-zawa, Mts. Tanzawa; Mamoru Sasō)
- 179 *Dryopteris gymnophylla* (BAK.) C. CHR. (Mt. Shiroyama, Tsukuigun; Mihoko Mase)
- 180 *Thelypteris japonica* (BAK.) CHING (Kameino, Fujisawa-shi; Kengo Kuwata)
- 181 *Loxogramme graminoides* (BAK.) C. CHR. (Shiraishi-zawa, Mts. Nishi-Tanzawa; Mamoru Sasō)
- 182 *Miscanthus oligostachyus* STAFF (Mt. Ohyama; Shigeru Ohtani)
- 183 *Luzula plumosa* E. MEYER (Ichino-sawa, Fudakake, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 184 *Platanthera minor* (MIQ.) REICHB. FIL. (Ishikawa, Fujisawa-shi; Kengo Kuwata)
- 185 *Geranium Thunbergii* SIEB. et ZUCC. form. *roseum* HARA (Kurokura, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 186 *Geranium tripartitum* R. KUNTH (top of Mt. Ohyama; Naotada Akaboshi)
- 187 *Staphylea Bumalda* (THUNB.) DC. (Ichino-sawa, Fudakake, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani) This differs from the type in that the petiolules of the lateral leaflets are 3-4 mm. long, and the midribs of the upper surface are pilose but those on the under surface are glabrous.
- 188 *Bupleurum falcatum* LINN. (Hongō, Yokohama-shi; Mihoko Mase)
- 189 *Angerica hakonensis* MAXIM. (Kiyokawa-mura, Aikō-gun; Misao Hemmi)
- 190 *Ostericum Sieboldi* (MIQ.) NAKAI (Mt. Ohyama; Misao Hemmi)
- 191 *Cynanchum atratum* BUNGE (Ichino-sawa, Fudakake, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)
- 192 *Cynanchum paniculatum* (BUNGE) KITAGAWA (Hongō, Yokohama-shi; Mihoko Mase)

- 193 *Diodia teres* WALTER var. *setifer* FERNALD et GRISCOM (Imada, Fujisawa-shi; Kengo Kuwata)
- 194 *Abelia tetrasepala* (KOIDZ.) HARA et KUROSAWA (Sengen-yama, Atsugi-shi; Misao Hemmi)
- 195 *Aster ageratoides* TURCZ. subsp. *Sugimotoi* KITAM. (Hinokibora, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani)

文 献

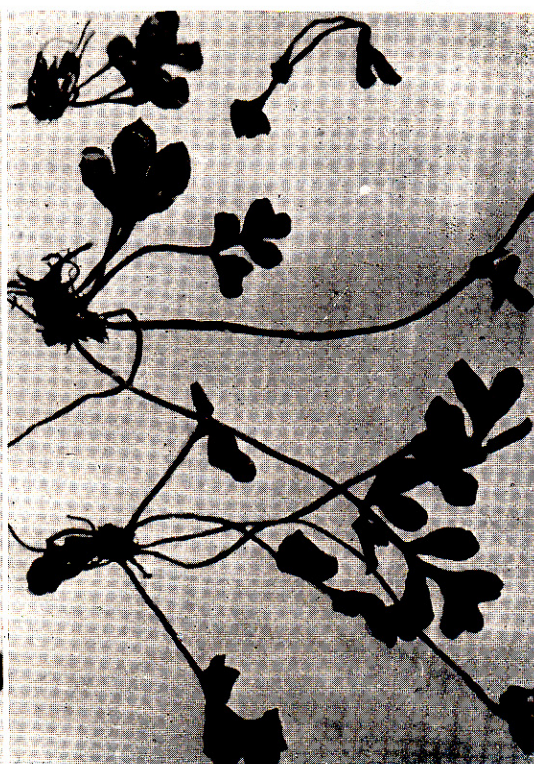
- 朝比奈泰彦 1934 キツネノボタンの二重花弁野生品. 植物研究雑誌, 10 (5): 74.
- 檜山 庫三 1954 トガクシツリフネ. 野草, ボタニカルノート (40), 20 (5): 1.
- 黒沢幸子・原 寛 1955 ツクバネウツギの変異について. 植物研究雑誌, 30 (10): 1~10.
- 神奈川県教育委員会 1958 神奈川県植物誌
- 榎山 泰一 1957 アキハギクを三浦に採る. 植物研究雑誌, 32 (1): 31~32.
- 宮沢 文吾 1960 クロバナエンジュ. 観賞植物図説: 45. 東京.
- 牧野富太郎 1954 キバナノショウキラン. 牧野日本植物図鑑, 改訂版 Pl. 1, 東京.
- 牧野富太郎 1961 牧野 新日本植物図鑑. 東京.
- 正宗 敬敏 1962 キバナノショウキランを箱根台ヶ岳にて写す. 北陸の植物, 11 (2) 表紙写真.
- 中井猛之進・小泉 源一 1927 ツクバネウツギ属. 大日本樹木誌, I: 616~620. 東京.
- 行方富太郎・倉田 悟 1961 日本産シダ植物総目録. シダの採集と培養, :241~344. 東京.
- 西沢 信一 1961 キツネノボタンの八重咲. 京都植物, 5 (2): 15.
- 大井次三郎 1956 日本植物誌. 東京.
- 大 谷 茂 1960 オオフタバムグラ. 横須賀市博物館自然科学研究報告, 5: 19.
- 大 谷 茂 1962 ヤマゼリ. 横須賀市博物館自然科学研究報告, 7: 58.
- 吉川代之助 1962 西丹沢にエゾノタチツボスミレを採る. 植物採集ニュース, 2: 6.



(A)



(B)



(C)

Asplenium capillipes MAKINO ヒメイトラノオ (相模・丹沢山塊)

- A. Whole 全形 B. Upper part of frond 無性芽のついている羽片の上部
C. Gemmae 無性芽



(A)



(B)

Yuania amagiensis NAKAI et F. MAEKAWA

A. A specimen from Mt. Tanzawa

B. Natural view at Mt. Hakone

キバナノ ショウキラン

(相模・丹沢山塊)

(相模・箱根, 松浦正郎氏撮)